

2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）表彰報告

若手育成事業委員会

2013 年 9 月に行われた 2013 年会における研究成果発表の中から、優秀な発表を行った若手研究者・学生等に最優秀発表賞ならびに優秀発表賞（2013 年富士電機賞）が授与されました。以下、報告します。

最優秀発表賞（2 名）

①ポスドクおよび博士課程学生の部

青木えり（東京大学大学院 工学系研究科）

受賞対象発表：「家庭における複数の環境配慮行動を対象とした個別心理モデルの構築と評価」

②学部学生・高専生・高校生等の部

林日菜子（山梨英和高等学校 自然科学同好会）

受賞対象発表：「ササラダニによる山梨県甲府市愛宕山の環境評価」

優秀発表賞（8 名）

①ポスドクおよび博士課程学生の部

Raupova Ozoda（豊橋技術科学大学大学院 工学研究科）

受賞対象発表：「Economy-wide material flow analysis and macro indicators in developing Uzbekistan」

②ポスドクおよび博士課程学生の部

望月智貴（静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科）

受賞対象発表：「森林から放出された BVOC が BVOC 由来二次有機エアロゾル生成に関与する制御要因の解明」

③修士課程（博士課程前期を含む）学生の部

大塚好美（静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府）

受賞対象発表：「ベンゾ [a] ピレンの生体応答は明期と暗期で異なるか？」

④修士課程（博士課程前期を含む）学生の部

田中健介（名古屋大学大学院 環境学研究科）

受賞対象発表：「低物質社会に向けた資源蓄積量の生産性に関する研究」

⑤修士課程（博士課程前期を含む）学生の部

松村悠子（大阪大学大学院 人間科学研究科）

受賞対象発表：「離島地域の新エネルギー導入による地域社会への影響と課題」

⑥修士課程（博士課程前期を含む）学生の部

山下裕太（横浜国立大学大学院 環境情報学府）

受賞対象発表：「一般環境大気中の六価クロム濃度変化への影響因子の網羅的検討」

⑦学部学生・高専生・高校生等の部

福富真実子（富山県立大学工学部環境工学科）

受賞対象発表：「事業所排水の PRTR データと WET 試験の関連性についての考察」

⑧学部学生・高専生・高校生等の部

川上詩織（山梨英和高等学校 自然科学同好会）

受賞対象発表：「太陽熱を利用した廃食油からのバイオディーゼル燃料生産」

【賞の創設ならびに受賞者選考・表彰経過】

年会優秀発表賞（富士電機賞）は、環境科学分野の発展とその将来を担う創意ある若手研究者・学生等を育成・奨励することを目的として2008年に創設され、今年で6年目を迎えました。この趣旨にご賛同いただいている富士電機株式会社様に毎年ご寄付をいただき、年会優秀発表賞（富士電機賞）として表彰状ならびに副賞の授与を行っています。年会において発表を行うポスドクから高校生までの若手会員を対象に公募を行い、年会講演集および当日のポスター発表について、年会に参加した正会員による投票を行った上で、若手育成事業委員会年会優秀発表賞選考委員らによる厳正なる選考審査を行い、受賞者を決定しました。2013年度は、ポスドクおよび博士課程学生の部から最優秀発表賞1名および優秀発表賞2名、修士課程（博士課程前期を含む）学生の部から優秀発表賞4名、学部学生・高専生・高校生等の部から最優秀発表賞1名および優秀発表賞2名が選ばれました。年会中に開かれる懇親会での表彰式では、楠井隆史担当理事から選考経緯について説明が行われた後、細田衛士会長から受賞者一人ひとりに表彰状と副賞（図書券）が授与されました。つづいて、富士電機賞の創設時からご尽力いただいている富士電機株式会社相談役の伊藤晴夫様から、お祝いとお励ましのお言葉をいただき、会場から大きな祝福の拍手が湧き上がりました。



ポスター発表の様子

【最優秀発表賞】

受賞者氏名：青木 えり（東京大学大学院工学系研究科）

受賞対象発表：「家庭における複数の環境配慮行動を対象とした個別心理モデルの構築と評価」

発表掲載頁：環境科学会2013年会講演集，p. 57

発表要旨：

わが国では、個人の環境配慮行動を促すために、国民的運動の展開や環境教育・環境学習の推進及び環境保全活動の促進等が実施されている。しかしながら、市民の日常的な行動の変革は十分になされていない。効果的な行動変容を促すには、多種多様な環境配慮行動に関わる幅広い要因を明らかにし、行動の推進力あるいは障害となる因子を、事前に把握して当該要因に働きかけることが有効ではないかと考えた。これまで、環境配慮行動に影響を及ぼさうる心理的因子は多様に示されてきたが、様々な行動への個別の対応は十分ではない。モデル化は、単純で一般的なものを求めるが、それが制限ともなり、異なる行動には異なる心理的因子が影響することを表現できない。よって本研究では、規定因となりうる様々な心理的因子から包括的な心理モデルを対象行動ごとに構築した。

アンケート結果を用い、探索的因子分析によって人々の心理的因子を抽出し、共分散構造分析によって行動に至るメカニズムをモデル化した。結果、環境問題全体への認知は行動の初期段階となり、行動に至るには対象行動自体への認知が及ぼす影響が大きかった。個別の心理的因子では、対象行動への好意的な感情を表す「態度」と、対象行動が環境問題の解決に有効であるという「有効性認知」が同一の心理的因子を形成し、行動をしたいという「行動意図」に大きな影響を及ぼすことが多かった。一方、意図だけでなく「行動実施」への影響は、対象行動の実施が「簡単」であるとの認知と、「習慣」化しているとの認知、規範意識の中でも、他者がどう行動をしているかの認知を表す「記述規範」という心理的因子の影響が大きかった。そして、多くの行



青木 えり（あおき えり）
東京大学大学院
工学系研究科

動モデルで3つのプロセスがみられた。1つ目のプロセスは、全体への認知から「有効性認知」や「態度」を経て、「行動意図」から「行動」につながった。2つ目は、「簡単」や「費用」「実行知識」といった対象行動の評価から「行動」に至った。3つ目は、「記述規範」や「個人規範」といった規範意識から行動につながった。対象行動によって、各プロセスからの影響力の大小やステップに違いがみられた。ここから、実際に環境に配慮した行動へと変容を促すためには、行動への「態度」を高めるだけでなく、対象とする行動にあわせて、「簡単」であることを示したり、他者も実施しているという「記述規範」を高めたりすることが必要である。また、本人がその行動を「習慣」だと感じ、行動を継続させる一方、行動を実施しない「習慣」を持つ場合には、行動への大きな阻害要因となっているその「習慣」を変える必要があると示唆された。

受賞者からの一言：

この度は、2013年会最優秀発表賞（富士電機賞）という素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございます。富士電機株式会社をはじめ、環境科学会の皆様、また年会にて発表をご覧の上、審査、議論や助言をいただいた皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

私は、大学入学後、学園祭のごみ処理から、堆肥作りに自然環境教育、地方自治体の施策、国際環境会議の参加運営等、多くの環境活動に関わってきました。そして卒業論文時、研究に足を踏み入れてから、これまで蓄積されてきた研究結果が環境活動や政策の場ではあまり活用されていない、知られていない現状を、非常にもったいないと感じてきました。そのため、環境問題に関わる多様な研究を広く活用してもらうためには、どのような結果が必要なのか、どうすれば活用することができるのかを考慮したいとの思いから、分野横断的に研究を進めてきました。

環境科学会には、人と環境に関わる幅広い分野の研究者が集い、参加者の皆様を持つ深く広い知識と経験、好奇心により、本研究発表に対してのみならず今後の研究生活に関しても大きな刺激を受けることができました。今回の受賞を励みに、環境問題の解決に資する研究成果を残せるよう精進していきたいと思っております。今回の受賞を励みに、環境問題の解決に資する研究成果を残せるよう精進していきたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくご厚く申し上げます。最後に、研究を進めるにあたり多くのご指導を賜っております東京大学の花木啓祐教授、栗栖聖講師に心より感謝申し上げます。

【最優秀発表賞】

受賞者氏名：林 日菜子（山梨英和高等学校 自然科学同好会）

受賞対象発表：「ササラダニによる山梨県甲府市愛宕山の環境評価」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 100

発表要旨：

私たちは、土壤動物、特にササラダニを指標生物に用いて、学校の裏山である愛宕山の環境調査をしました。ササラダニの個体数や生息種数を調べることで、人為的な影響を把握することを目的としました。愛宕山とは、甲府盆地の北縁に位置する山で、植生は主にコナラ林で下生えはほとんどなく、山頂までは県道が通っており、山梨県立科学館などの施設があります。

ササラダニとは、山などに住む草食性のダニです。腹部にある胴感毛という突起が洗浄器具のササラに似ていることから、この名が付いています。ササラダニの中にも 800 以上の種類があり、それぞれ好む環境が違ってきます。調査方法として、愛宕山に、A、B、C の 3 地点を定め、そこからそれぞれ同量の土壌を偶数月に採取し、自作のツルグレン装置に約 5 日間かけ、土壤動物を抽出しました。抽出したものを、顕微鏡で観察し、図鑑などを使い同定しました。ツルグレン装置とは、円錐をひっくり返した形の装置で、土壤動物が熱と光と乾燥を避ける性質を利用して土壤動物を抽出する装置です。評価方法は、100 点法と 5 段階法の 2 つを使用しました。

100 点法は、土壤動物全体を対象とするもので、細かな評価ができ、5 段階法は、ササラダニだけを対象とするもので、大まかな評価ができます。観察結果は、土壤動物が 85 種類、そのうちササラダニは 41 種類が確認できました。調査結果として、100 点法の A 地点の平均は 59.5、B 地点は 56.8、C 地点は 55.7 で、5 段階法の A 地点の平均は 2.8、B 地点は 2.8、C 地点は 2.6 でした。考察として、自然度は A > B > C の順に高く、その理由は、A 地点は県道から遠く、人の出入りが少ないこと、C 地点は県道から近く、人の出入りが多いこと、B 地点はその中間であることが挙げられます。人の出入りや排気ガスの影響が大きいほど、土壌が踏み固められたり、そこに生える植物の種類が変わってきたりして、住めるダニの種類が限られてくると考え



林 日菜子（はやし ひなこ）
山梨英和高等学校
自然科学同好会

られます。月ごとの値から季節的変動を見ると、夏が高く冬が低いことが分かります。それは、夏の暑さ、冬の寒さ、湿度の影響があるかもしれません。横浜国立大学名誉教授の青木淳一先生の長年の調査によって得られた一般的な二次林の値と比較すると、今回得られた値はそれより少し低いことが分かりました。このことから、愛宕山は一般的な二次林としては人為的な影響が比較的大きいことが分かります。結論として、愛宕山は二次林に分類されます。しかし、二次林としては人為的影響が強いです。また、愛宕山の自然度は、人為的な影響の大きさに従っています。

受賞者からの一言：

この度は、環境科学会年会最優秀発表賞（富士電機賞）を授与していただき、誠にありがとうございました。研究を進める上で大変だったことは、山に入ることと、ダニを同定することです。山に入って土壌を採取するときは、同じ量を測り取らなければならない、山に入り慣れていない私たちにとって毎回大変でした。ダニの同定も、慣れないうちはとても苦労しましたが、観察を続けるうちに、だんだん見ただけで種類が分かるようになってきて、達成感を感じました。まだ研究を始めて2年ほどしか経っていないので、やっと土台ができてきた段階ですが、今後も長く継続していけるようにしたいと考えています。学会当日は、今まで数えるほどしか人前で発表したことがなかったため、うまく説明できるか不安でした。しかし、発表を見てくださった方々に貴重なアドバイスを頂いたので、今後の研究に生かしていきたいと思えます。まだまだ未熟な私たちですが、今回の受賞を励みに、今後も研究の発展・充実を図って邁進していきたいです。最後に、研究に対して多くのご指導をいただきました、横浜国立大学名誉教授の青木淳一先生、山梨大学生命環境学部教授の御園生拓先生、また私たちにこのような発表の場を与えて下さった環境科学会の皆様に心から感謝申し上げます。

【優秀発表賞】

受賞者氏名：Raupova Ozoda（豊橋技術科学大学大学院工学研究科）

受賞対象発表：「Economy-wide material flow analysis and macro indicators in developing Uzbekistan」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 77

受賞者からの一言：

私の研究テーマは、“持続可能な開発環境とウズベキスタン社会の需要と供給を考慮した持続可能なエネルギー資源”です。これは、マテリアルフロー分析法によるエネルギー及びエネルギー資源消費の現状を評価することで、その後、ウズベキスタンでの、再生可能エネルギーやリサイクルシステムの導入の可能性を推定する研究です。研究目的は、十分に確立された持続可能な社会と良好な環境マネジメントシステムを決定することです。日本に在日した理由は、日本が革新技術と方法論の多くの経験を持つ先進国の一つであることです。ウズベキスタンは、途上国であるため、まだいくつかのことを向上させ、開発する必要があります。このように、新しいことを学び、持続可能なエネルギー資源の概念の方法と技術を革新し、さらに、ウズベキスタンの社会生態学および経済的側面の発展のためにすべての私の得た知識を活用したいと思っております。

私はこのような偉大な会議やポスター発表イベントなどを開催していただいた公益社団法人環境科学会と富士電機株式会社に感謝の気持ちを述べたいと思います。このイベントは、学生達が科学分野で意見交換ができる機会となり、更に自分自身のアピールをするチャンスになると思います。優秀発表賞に選ばれたことは、私

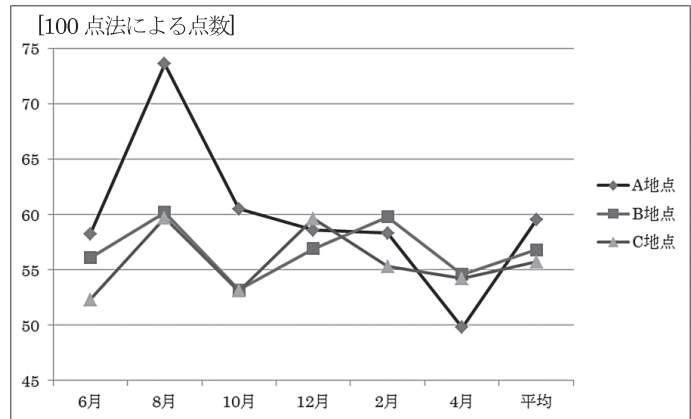


図1 100点法による月ごとの点数の推移



Raupova Ozoda
(らうぼわ おぞだ)
豊橋技術科学大学
大学院工学研究科

にとってとても大きな驚きであり、立派な贈り物をいただいたと感じました。将来的にウズベキスタンが持続可能な国となることに貢献できるように、これからももっと研究に一生懸命に取り組んで頑張っていきたいと思っています。

【優秀発表賞】

受賞者氏名：望月 智貴（静岡県立大学大学院生活健康科学研究科）

受賞対象発表：「森林から放出された BVOC が BVOC 由来二次有機エアロゾル生成に与える制御要因の解明」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p.96

受賞者からの一言：

このたびは環境科学会 2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）を頂き、誠にありがとうございます。本研究は、森林域における揮発性有機化合物（BVOC）の放出から二次有機エアロゾル生成に至る制御要因を明らかにすることを目的としています。

測定は夏季の 1 週間の集中観測として、さまざまな研究機関や大学の協力のもとで実施しました。二次有機エアロゾルの分析は北海道大学低温科学研究所の宮崎雄三先生、 O_3 と NO_x の測定は帝京科学大学の和田龍一先生、北麓カラマツ林測定サイトの微気象データの提供は国立環境研究所の高橋善幸様にお世話になりました。揮発性有機化合物の測定は、私の所属する静岡県立大学植物環境研究室で行いました。測定では私の所属する研究室の皆様にもお世話になりました。また、この測定にアドバイスをくださった京都大学の奥村智憲様に感謝致します。

測定装置の設置作業は高所なので、緊張感をもつての作業となりました。高さ 16 m の足場タワー上へ電動ウィンチを用いてハイボリュームエアサンプラーを上げたり、35 m のタワー上に BVOC 採取用にガス採取口を設置したりと、普段ではなかなかできない作業でした。実際の測定は朝 5 時に現場へ集合し、午後 7 時までの長時間の作業が連日となり、大変でしたが、よい測定データが得られ、達成感が得られました。

今回の受賞を励みとして、今後の研究活動により一層精進していきたいと思っております。



望月 智貴(もちづき ともしき)
静岡県立大学大学院
生活健康科学研究科

【優秀発表賞】

受賞者氏名：大塚 好美（静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府）

受賞対象発表：「ベンゾ [a] ピレンの生体応答は明期と暗期で異なるか？」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 91

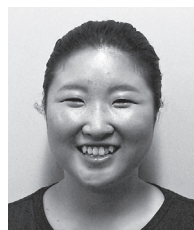
受賞者からの一言：

この度は、2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）を受賞させて頂き、誠にありがとうございます。貴重な研究発表の機会を与えて下さった富士電機株式会社の皆様、公益社団法人環境科学会の皆様および学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の発表では、代表的な環境発がん性物質であるベンゾ [a] ピレン (BaP) の生体応答が投与時刻の違い（明期と暗期）で異なるかについて明らかにすることを目的に、マウスに明期及び暗期に BaP を投与し、遺伝毒性の指標である小核誘発率、血液生化学指標、肝臓および脂肪組織における遺伝子発現、組織中のトリグリセライド量を検討しました。その結果、BaP を暗期に投与した場合、明期に投与した場合と比較して、マウス肝臓において脂質合成系に対して強い影響を及ぼす可能性が示唆されました。学会中にご指摘して頂いたことを考慮し、検討項目を増やして、少しでも社会のためになる研究・報告ができるよう、今後も精進してまいります。

環境科学会 2013 年会は、私にとって初めての学会発表でした。当日は、緊張よりも興味を持って頂けるかどうか不安でしたが、ポスターを見に来て下さった方やご質問して下さった方々のおかげで不安も解消され、本研究のプレゼンが自信を持ってできました。この場を借りまして、御礼申し上げます。

最後に、研究を進めるにあたり、多大なるご指導を受け賜りました静岡県立大学大学院の下位香代子教授、保田倫子助教、および研究室の皆様方に心より感謝申し上げます。



大塚 好美(おおつか よしみ)
静岡県立大学大学院
薬食生命科学総合学府

【優秀発表賞】

受賞者氏名：田中 健介（名古屋大学大学院環境学研究所）

受賞対象発表：「低物質社会に向けた資源蓄積量の生産性に関する研究」

発表掲載頁：環境科学学会 2013 年会講演集, p. 110

受賞者からの一言：

この度は、環境科学学会 2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）という賞を授与して頂き、誠にありがとうございます。様々な分野に富んだ方々が所属される本学会のポスター発表を通して頂いた議論やアドバイス等は今後の研究に繋がる大変有意義なものでした。

本研究では、持続可能な社会の実現に向け、長い年月を経て建築物・社会基盤施設として社会に蓄積されてきた資源の生産性を示すべく、それらの資源蓄積量、経済成長、資源生産性の関係性を日本全国と地域ごとに推計したものでした。資源蓄積量は 1955 年から増加の傾向にありましたが、産業別にみると第二次産業と第三次産業では減少傾向にありました。また、資源蓄積量がある程度充実することで、物質投入の効率を示す資源生産性が急激に増加するという関係性を示すことができました。これらの研究が持続可能な社会の実現に向け貢献できる研究にできるよう、今回の学会への参加、受賞を励みに、これまで以上に研究活動に邁進していきたいと思っております。

また、本学会でお世話になりました、富士電機株式会社様、学会会員の皆様、並びに学会事務局の皆様から御礼申し上げます。最後ではありますが、日頃からご指導頂いております名古屋大学谷川寛樹教授、奥岡桂次郎助教、杉本賢二研究員をはじめ本研究に関係頂きました皆様、研究を進めるにあたりサポートをして頂いた研究室の後輩の方々に感謝申し上げます。



田中 健介(たなか けんすけ)
名古屋大学大学院
環境学研究所

【優秀発表賞】

受賞者氏名：松村 悠子（大阪大学大学院人間科学研究科）

受賞対象発表：「離島地域の新しいエネルギー導入による地域社会への影響と課題」

発表掲載頁：環境科学学会 2013 年会講演集, p. 4

受賞者からの一言：

この度は、環境科学学会 2013 年会において優秀発表賞（富士電機賞）という栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、日本海側の離島のうち比較的規模の大きい長崎県対馬島・壱岐島、新潟県佐渡ヶ島の 3 離島を研究対象としています。研究手法として、半構造化インタビュー及び参与観察に加え、環境社会学の理論の適用も試み、新エネルギー導入が地域に与える影響と課題の分析を行いました。この研究の動機として、発表者自身が離島出身であり、離島地域の抱えるエネルギー問題を実感してきた経験があります。また、実際に調査を開始したのは東日本大震災以前だったのですが、地域のエネルギー自給に関する研究はますます注目されているように感じております。

発表者は、本学会に初参加であったことから発表当日は非常に緊張しておりました。しかしながら、多くの方から温かい助言を頂戴し、本学会の持つ包容力という魅力を実感しました。まだまだ未熟な研究ではありますが、今回の受賞を励みに、社会に貢献し、現場に還元できる研究を目指していきたいと思っております。

最後にこの場を借りて、富士電機株式会社様、推薦頂いた先生方、当日ご質問・ご助言をくださった方々、ご指導頂きました三好恵真子准教授、小林清治教授、そして貴重なデータを提供し、調査にご協力頂いた対馬市・壱岐市・佐渡市の皆様に心より御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



松村 悠子(まつむら ゆうこ)
大阪大学大学院
人間科学研究科

【優秀発表賞】

受賞者氏名：山下 裕太（横浜国立大学大学院環境情報学府）

受賞対象発表：「一般環境大気中の六価クロム濃度変化への影響因子の網羅的検討」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 29

受賞者からの一言：

この度は、2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）を受賞させていただき、誠にありがとうございました。また研究発表の貴重な機会を与えてくださいました環境科学会関係者の皆様には厚く御礼を申し上げます。

今回は、前年度に発表（2012 年会講演集 p.4.）した大気中でのクロムの形態変化の可能性に加え、気象条件にも注目して、大気汚染物質の優先取組物質に指定されている六価クロムの大気中濃度変化を、解析、考察いたしました。その結果、夏季ではオゾンによる三価クロムの形態変化、横浜の地理的条件から風が南 - 南西方向から強く吹くとき、冬季では大気安定度が安定であるときに、大気中の六価クロム濃度が高くなる可能性が示唆されるという結論に至りました。今後は、形態変化実験を引き続き行い、また六価クロム濃度変化に影響する他の条件の検討と特定を行いたいと考えております。

今回の発表でも、多くの先生方や専門家の方から、自分では気付かない視点での様々なご質問やご指摘をいただき、参考になることが多くありました。説明に拙い点がありましたが、前年度に続いて優秀賞を受賞できたことは、私の研究に関心を持っていただけていることが再確認でき、研究への自信にも繋がりました。重ねて御礼申し上げます。

最後に、研究を進めるにあたりご指導くださいました横浜国立大学の藤江幸一教授、亀屋隆志准教授、小林剛准教授、及び研究室の皆様方に感謝申し上げます。



山下 裕太(やました ゆうた)
横浜国立大学大学院
環境情報学府

【優秀発表賞】

受賞者氏名：福富 真実子（富山県立大学工学部環境工学科）

受賞対象発表：「事業所排水のPRTRデータとWET試験の関連性についての考察」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 94

受賞者からの一言：

私が今回の学会で発表した研究は、PRTR データと実際に行なっている WET 試験の関連性を探るというものでした。この研究を進める上で最も苦労したことが、膨大な数のデータを収集し、信頼性のあるデータを抽出することでした。ひたすら、データの確認作業を行い、一日が終わっていったことを覚えています。根気強く指導してくださった先生のおかげで、完成させたポスターは満足のいくものとなりました。また、結果としても2つの関連性や補完の可能性を見出すことができ、とても達成感がありました。

当日の発表は緊張してしまい、最初はポスターの前に立っていることで精一杯でした。上手く伝えられなかった部分が多かったと感じています。しかし、多くの方々にアドバイスを頂き、少しずつ自信を持って発表することが出来るようになりました。また、2日間を通して沢山の方の発表を聞く機会を得ました。環境科学会は分野が広く、全く知識がない分野にも携わることができ、勉強になりました。皆様の創意工夫された発表から学んだことを後の研究や発表に生かしたいと思えます。

最後になりますが、こんなにも素晴らしい賞を頂けて本当に嬉しいです。ありがとうございました。



福富 真実子(ふくとみまみこ)
富山県立大学工学部
環境工学科

【優秀発表賞】

受賞者氏名：川上 詩織（山梨英和高等学校自然科学同好会）

受賞対象発表：「太陽熱を利用した廃食油からのバイオディーゼル燃料生産」

発表掲載頁：環境科学会 2013 年会講演集, p. 102

受賞者からの一言：

この度は、環境科学会 2013 年会優秀発表賞（富士電機賞）を受賞させて頂き、誠にありがとうございます。受賞できるなどとは思ってもいなかったのとても驚いています。私達は廃食油からバイオディーゼル燃料を生成する研究をしていますが、その時に必要な熱量を太陽熱でまかなうことで、より環境に優しい作り方を目指しています。太陽熱を利用しているため天候に左右されやすく、また油の掃除や処理が大変でした。昼休みや放課後などの短い時間の中ではなかなか実験を進めることができませんでしたが、皆で協力し苦勞した結果が今回の賞に繋がったものと思っています。発表当日は、周りには大学の方々ばかりだというプレッシャーの中とても緊張しました。最初はつたない発表となってしまいましたが、説明をしていくうちに理解が深まり、最終的には堂々と発表することができたのではないかと考えています。高校生だけの環境では得られない刺激やアドバイスなども沢山頂き、今後の活動への意欲が一層高まりました。私達の手だけでは、このような場所に立たせて頂くことはできませんでした。指導して下さいました顧問の先生方、山梨大学の御園生拓教授、そして私達がこの環境科学会で発表できるよう取り持して下さいました学会事務局の皆様には心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



川上 詩織(かわかみ しおり)
山梨英和高等学校
自然科学同好会